

ハちゃんの英文読解ポイント10

～改訂版 Ver. 3～

■読解ポイント1. 英文の区切り方 ～意味のカタマリを意識せよ～ ①

長くて複雑な文章を読む際に、自分で文章を細かい単位に切り取る技術がどうしても必要です。英語の基本的な文の語順は、『だれが/は→どうする→何を/に→どのように→どこ→いつ→なぜ』です。そしてその英文の心臓部分は**動詞**です。ですから、まず動詞を見つけましょう。そして『どのように』『どこ』『いつ』や、名詞の修飾部はよく**前置詞**(with, by, in, on at, of, to, for など)で始まることを知っていれば、英文を前置詞の直前で区切って小さな固まりに分けることができます。文はいくら長くても、数語の意味の固まりが並んでいるものにすぎないので、動詞、前置詞を見つけて文を区切っていけば、長い文章もそれほど恐れるものではありません。また文の中にコンマで区切られている場合は、そこで文章が切れているという意味です。文章は上から上から順に読み下していきましょう。その際に、①動詞の前後、②前置詞の前、③コンマの後、④接続詞の前、⑤関係詞の前、で斜線(/、スラッシュと呼ぶ)を入れて読んでいってごらん下さい。今まで流れがつかめず難しかった英文が、思ったより簡単に思えてくるはずです。これが長文を読むときのコツです。英語の苦手な生徒は、このように小さな固まりに細分化することができないために、ただ漫然と英文をながめているようです。

英文の区切り方(カタマリの見抜き方)

①動詞の前後
②前置詞の前
③コンマの後
④接続詞の前
⑤関係詞の前

重

要

長文を読むときの基本中の基本ダ！

■読解ポイント2. 直読直解方式の読み ～同時通訳の心だ！～ ②

いいですか、みなさん。英米人は自分が見たもの、目にしたものを、目(というレンズ)に飛び込んでくるそのままの順番で言葉にしていけるのです。自分が見たもの、聞いたこと、感じたものを全く順序を入れ換えしないで、そのままの順序で単語に置き換えながら並べていくのが、英語の基本的な語順であることをしっかり頭に入れておきましょう。ということは、読もうとする英文を出てきた単語の順番に左から右へ向かって順に読んでいく、という**直読直解方式**をとることが重要であることはお分かりですね。文を読み下すということは、川の流れて身を任すのに似ています。後から前へ遡るといってとんぼ返り訳は、川の流れてさからって泳ぐのに似ていて、疲れるだけです。川の流れて乗って川下へ川下へと進んで行けばよいのです。従来あるように、関係代名詞を見たら、「～するところの～」などと右から左にさかのぼって訳す、などという馬鹿なことは読むスピードを遅くするだけで、何のメリット也没有。同時通訳で行われているように、出てきた単語をどんどん頭に入れていけばよいのです。従来の訳読方式に慣れ親しんできた人がこの直読直解方式に切り換えるためには、ちょっと工夫が必要かもしれません。次の例を見て、ぜひ練習してみましょう。



■直読直解方式の読み方の一例

句	従来の伝統的な読み方	直読直解方式の読み方
関係代名詞 who[which]	～するところの～	～そしてその人【物】は～
付帯状況 with + X + Y	XがYした状態で	そしてXはYである
A such as B	BのようなA	A、例えばB
until...	～するまでずっと	そしてとうとう～
without...	～することなしに	そして【しかし】～しない
when...	～する時に	その時、～
where... (関係副詞)	～の場所で	そして、そこで～
to 不定詞 (目的)	～する目的で	その目的は～
by...	～することによって	その方法は～
after...	～した後で	その前に～していた
before...	～する前に	その後～した

以下のようないくつかの例を通して、その要領を会得してください。

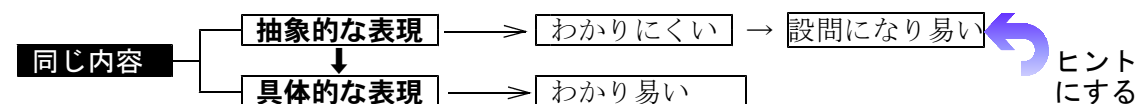
- <例1> He worked hard **until** he got exhausted.
疲れるまで必死で働いた。→彼は必死で働いた。そしてとうとう疲れ果ててしまった。
- <例2> I walked in the park **through which** a pretty river runs.
私はきれいな川が流れている公園を散歩した。→私は公園を散歩した。その公園を通して、きれいな川が流れている。
- <例3> It is well known **that** she has a big collection of stamps.
彼女が多くの切って井を集めていることよく知られている。→よく知られていることだが、彼女はたくさんの切手を集めている
- <例4> She was listening to him **with** her eyes shining.
彼女は目を輝かせながら彼の話を聞いていた。→彼女は彼の言葉に耳を傾けていた。そして彼女の目は輝いていた。
- <例5> It was after dark **that** they got to the station.
彼らが駅に着いたのは暗くなってからだった。→暗くなってやっと彼らは駅に着いた。「頭からどんどん読み下す」、これが英語を速く読む秘訣なんですよ。

いいか、英文は
左から右へ順に読め！



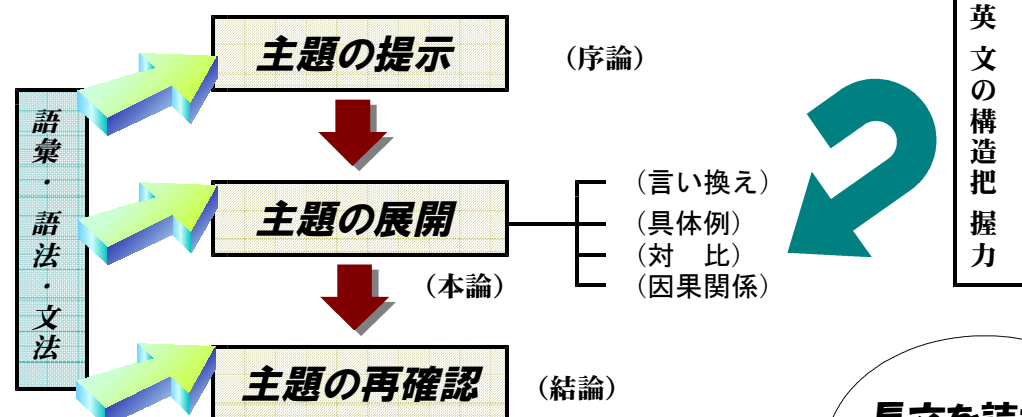
■読解ポイント3. 「抽象」から「具体」へ ～英語らしさの本質！～ ③

入試問題の80%を占めるのは、**評論・論説文**です。「単語の意味や構文は何とかとれるようになったけれども、長文になるとさっぱり読めない。」「読むのにやたらと時間がかかるのに、何の内容なのか見当もつかない、どうしたらよいのでしょうか。」そう言って相談に来る受験生も多いのです。実はこういうことです。そこに並んだ英文をただズラズラと読んでしまい、結局何が何だか分からなくなってしまうのです。英文の中の全ての文・パラグラフが同じ重要度を持っているわけではありません。**評論文には表現の順番、あるいはパラグラフが構成されている順序に、一定の形式・パターンがある、ということを見逃してしまっている受験生が結構多いようです。**評論文を読む際には、A **抽象的な表現** → B **具体的な表現**という大きな流れを見逃してはなりません。ある事項についてまず全体をまとめて抽象的に表現し、そのあとで部分部分を具体的に表現していくのです。このような「抽象から具体へ」という流れを日頃からしっかりと押さえた勉強をしなければいけません。実際の英文を見たときに、頭の中のイメージはおおよ次のようになっていなければいけません。

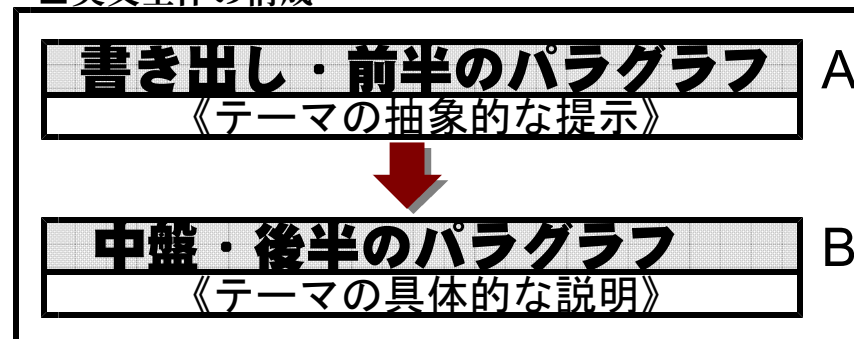


このことが分かると、具体的な部分を読んでヒントにして、抽象的で難解な箇所を考えればよい、という戦略が使えますね。もう一度繰り返します。「**抽象から具体へ**」、これが英語の「評論文」を読むときのキーワードです。**論理の流れ**を追うのです。

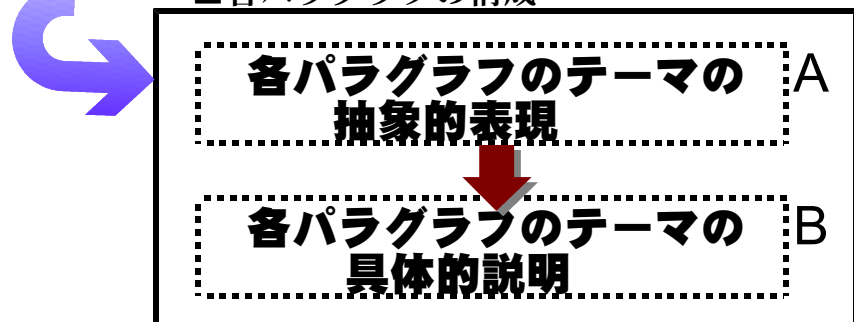
■基本的なパラグラフの展開



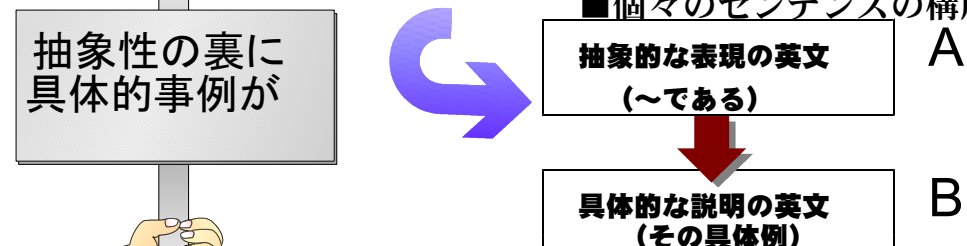
■英文全体の構成



■各パラグラフの構成



■個々のセンテンスの構成



★英文は同じ内容を形を変えて繰り返す

下線部だけを見るのではなくその近辺にも目を配れ！

長文を読むときは「流れ」を意識する！

※単語や表現よりも論理を優先して読み進む！

重要



■読解ポイント4. テーマ発見のテクニック ～何に注目するのか？～ ④

次のような3つの箇所には、線を引いて読む習慣をつけましょう。

テーマ発見のテクニック

- ①パラグラフの書き出しと最終文は要注意！
- ②疑問文？は要注意！（筆者の問題提起であることが多い）
- ③逆接表現（「しかし」）の後は要注意！

《逆接表現とは？》
 but (しかし) however (しかしながら)
 yet (しかし) though (～だけれども) still (なお)
 nevertheless (それにもかかわらず)
 on the other hand (また一方では)
 on the contrary (それどころか反対に)

重要

①第1パラグラフは英文全体のテーマを述べる部分ですから、その前半部分はとりまなおさず、英文全体のテーマになることが多いのです。そしてその後は、最初の文で述べた主張や考えなどの裏付けをするために、具体例をあげたり、別の表現をしたりして、内容をふくらませていくわけです。したがって要領のいい人は、この部分は飛ばして読んでもいいわけです。またパラグラフの最終文は、次のパラグラフの予告・橋渡しをする働きがあります。慣れてくると、第1文と最終文だけを読んで、このパラグラフに書かれている要点を推測することができるようになります。

[第1パラグラフ] パラグラフとは筆者の言いたいことのまとめ



- ①1つのパラグラフには1つのテーマがある。(書き出しに注意)
- ②パラグラフの最終文は、次のパラグラフの予告・橋渡しの役割。

②疑問文は読者に問題提起をするために用いられます。したがってその答えがテーマに結びつくことが多いのです。「疑問文は要注意」ということです。

③「彼女は美人だ、しかし心は貧しい。」という場合、本当に言いたいのは「彼女は美人だ」ということでしょうか。それとも「彼女は心が貧しい」ということでしょうか。もちろん後の方ですね。英語の場合も同様で、大切なのは逆接の表現の後に述べられている内容なのです。他の人々の意見や多数派の考えを述べた後に、逆接表現を置いて、筆者の意見を述べるわけです。

■論説文の中での but の働き



■読解ポイント5. 指示語に注意 ～日頃から絶えず意識しながら読め！⑤

英語では同じ名詞を繰り返して用いることは少なく、一度出た名詞はしばしば he, they, it, one などの代名詞に置き換えられます。また this や that によって前の文全体の内容を表すこともあります。したがってそれらの指示語が何を指しているのかを、正確につかむことが英文を理解するうえで大変重要なのです。英文を読みながら、それらが一体何を指すのか、常に考える習慣をつけてください。とにかくどんな場合でも、英文を読むときは、代名詞は常にそれが指すものに置き換えて読むクセをつけましょう。「彼、彼女、あれ、それ、・・・」はダメです。その代わりに「その少年は」「その少女は」のように訳出することです。英文解釈の際に最も注意して欲しいことの一つです。



《指示語が指す内容》

指示語の周辺にあり、たいてい前にある。
(デマ直前：直後＝9：1)

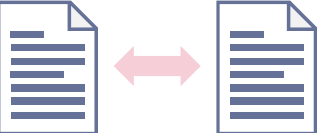
単複の区別もヒントになる。

代名詞 (it, this, she など)	→	数と性を基準に名詞をさがせ！
名詞 (the story, the news など)	→	数と内容を基準に名詞をさがせ！
代動詞 (do)	→	動詞を基準にさがせ！
副詞 (so, there など)	→	内容を基準に副詞などをさがせ！

指示語が何を指すのかを解く場合、あまり遠くを探さないで、まず直前の文、次にその手前の文を探すようにしてください。3～4文も手前に指示語の内容があることはまずありません。
それに加えて知っておいて欲しいことは、this, that は文あるいは節の内容(大半が直前の)を受け、it は文内容を受けることは少なく、単純な名詞を受けるのが普通だということです。



要注目
ATTENTION





指示語は直前の文中を見よ！





■読解ポイント6. つなぎ語が重要！ ～全部覚えろ！～⑥

●否定語・限定語・主張語

長文を読んでいて、このような語が出てきたら、すぐ○で囲んで注意を喚起する習慣をつけましょう。著者の強い思いが込められていることが多いからです。

種類	働き	英語表現
否定語	筆者が否定的な論旨を展開するときのキーになる語(句)	not no never without nothing neither A nor B hardly scarcely seldom rarely barely less few little
限定語	微妙な程度を表す語(句)	only ～だけ almost ほとんど at least 少なくとも rather than むしろ still まだ
主張語	筆者の主張を導く語(句)	should, ought to ～すべきだ must, have to ～ねばならない cannot help V-ing ～せざるをえない believe ～と信じる It is important that ～ ～が重要である



●主なつなぎ語

逆接 ⇔	副詞	but however yet on the other hand nevertheless nonetheless instead in fact as a matter of fact on the contrary but still ,though
	接続詞	though although even if[though] whereas while it is true ...but granted[granting] that ★S＋Vが必ず2組あることに注意！
	前置詞	in spite of despite with all for all (～にもかかわらず)

接続詞	結果	because/ as/ since/ for/ now(that)	原因
	原因	so/ so that/ with the result that	結果
	原因	This is why	結果
	結果	This is because	原因
副詞	原因	thus/ consequently/ therefore/ hence/ as a result/ then	結果

★この両者を区別すること

因果関係		in consequence/ accordingly
	動詞	原因 cause/ bring about/ lead to/ end in/ result in/ account for/ contribute to/ amount to/ give rise to/ arouse/ trigger 結果 come from/ result from/ stem from/ drive from/ arise from/ originate from 原因 owe/ ascribe/ attribute/ put down/ impose 結果 to 原因
	前置詞	結果 because of/ owing to/ on account of/ due to/ thanks to 原因 by virtue of/ as a result of/ as a consequence of/ in consequence of/ in the wake of

追加 +	also	and	too	as well		
	besides		furthermore		moreover	what is more
	in addition(to)	additionally			at the same time	to say nothing of～
	not to speak of～	on top of that			for one thing	not to mention～
	likewise	similarly	alike		correspondingly	equally in the same way

例示 ＝	that is(to say)	namely	in short	in brief	in a word	in a sense
	to sum up[summarize]		to make a long story short			above all
	say for example		for instance	to give an example		specifically
	to illustrate	such as...	like...	including	:(コロソ)	――(ダツシュ)
	in other words	I mean		That means that...		
	to put it another way			in particular/ particularly		
	so to speak		as it were			

簡単な単語をおろそかにしない！ 重要

この表現の周辺に注目して
トピックセンテンスを見つけよう！

■「一般論」を導く表現

generally 一般的に
all すべての
always 常に
on the whole 概して

■「具体例」を導く表現

for example(=for instance) たとえば
such as たとえば～のような
likewise 同様に

■「対比」を表す表現

while その一方で
on the other hand 他方で

■「原因」を導く表現

because(=since, as) ～なので
now that 今や～だから

■「結果」を導く表現

as a result(=consequently) その結果

■「並列」を示す表現

and そして
also また

■「言い換え」を示す表現

that is すなわち
in other words 言い換えれば

■「逆接」と「譲歩」の表現

but しかし
however しかし
though(=although) けれども
nevertheless それにもかかわらず



therefore(=thus) したがって

■「要約」を示す表現

in short 要するに
in brief 要するに
to sum up 要するに

■「結論」を導く表現

to conclude(=in conclusion)
結論を言えば
after all(=in the end) 結局<文尾で>
※文頭は「なぜなら」の意味

■「筆者の主張」を示す表現

I think ～だと私は思う
I'm sure ～だと確信している
should(=ought to) すべきだ

■読解ポイント7. 名詞モードから動詞モードへ ～重要テクニック～ 7

下線部訳などで和訳作業をする際に、知っておいてよいことは、名詞で表現された箇所(名詞モード)を動詞のように(動詞モード)訳してやると、意味が鮮明に理解できるということです。例を見てもらいましょう。

(例)	名詞モード	→	動詞モード
his arrival	彼の到着	→	彼が到着したこと
his murderer	彼の殺人者	→	彼を殺した人間
change in weather	天気の変化	→	天気が変化すること
pursuit of happiness	幸福の追求	→	幸福を追い求めること
sensitivity to cold	寒さに対する鋭敏性	→	寒さに敏感であること

ある程度英語を読む力がついてきたら、どうしても避けて通れないのがここで説明する「名詞モードから動詞モードへ」ということです。

次の英文を日本語にしてみてください。ちょっと難しいですよ。

The failure through indolence of a man in his business caused this happening. どうです。難しいでしょう。ほとんどの人が「事業家の怠惰による失敗がこの事件を引き起こした」とやってしまいます。ここは through indolence (怠惰を通して→怠惰により)を()でくくって飛ばして読んでしまうのです。つまり the failure of a man in his business としてしまいましょう。この「ある人の事業における失敗」という名詞モードを、「ある人が事業に失敗する」という動詞モードに直せばもうしめたもの。そしてこのような無生物を主語とした構文は「副詞的に訳す」のでしたね。「怠惰のせいで、ある人が事業に失敗したことでこの事件は起こったのだ」という模範解答が引き出せます。このように英文和訳は、

「原文」→①「直訳」→②「自分で内容をかみくだく」→③「少しでも自然な日本語訳」 という3段階の流れでやるとよいと思います。

名詞モードから動詞モードへ

■読解ポイント8. 原文典拠の法則 ～内容一致問題の鉄則～ ⑧

重要

原文典拠の法則

選択肢を判断する根拠は全て本文に求める



選択肢が内容読解のヒントになることが多いだけに、「設問を先に読む」ことは、ぜひみなさんに実行していただきたい方法です。そして答えは必ず英文の中に書かれています。それを素早く見つけることです。これを「原文典拠の法則」と言います。便利な方法としては、設問に使われているキーワードと同じ、またはその言い換え表現を、本文中に探すと案外楽に正解にたどりつけますよ。

●基本は抜き出し 自分の言葉は極力使わない

●本文の「どこ」を書いているかを明確に

対応箇所を探す

見つかると合致するかどうか検討する→

合致する → ○

合致しない → ×

見つからない → ×

※書いてないことはアウトです



重要

**正解（○）の選択肢は本文の巧妙な言い換えだ！
間違い（×）の選択肢は本文の巧妙なすり替えだ！**

(1) 人物のすり替え

「...と私は言った」→「先生は...と行った」

(2) 肯定・否定の逆転

「常識は役立つ」→「常識を使うことはできない」

(3) 時間・場所・頻度の副詞要素のすり替え

「そこに行く前に」→「そこにいる時に」

(4) 数量表現・数量のすり替え

「ほとんど知らない」→「よく知っている」

(5) 因果関係のすり替え

「A ゆえに B である」→「A なのは B だからだ」「C ゆえに B である」

(6) 条件関係のすり替え

「X ならば Y である」→「X であるのは Y の場合である」

(7) 過度の一般化と過度の限定

極端な単語を付加して誤りの記述を作る

(8) 事実と比喻のすり替え

事実を「～のようである」とすり替える

(9) 前半○後半×のパターン

正しい前半部に誤った描写を付加して間違いの記述を作る

要確認

■読解ポイント9. 無生物主語構文 ～「出川の鬼」 ⑨

みなさんは、*Illness prevented me from going out.*という文章を、どのような日本語に直しますか。「病気が私が外出することを妨げた」ではちょっと変な感じですね。このように *Illness* という無生物が主語になっている場合には、主語が人の時のように「～は」「～が」では、こなれた日本語にならない場合が多いのです。このようなときには主語を副詞的に「～で」と訳すとうまくいきます。「病気で私は外出できなかった」とするのです。

The mere sight of a snake makes her sick. 蛇をただで彼女気分が悪くなる。

Her good ear enabled her to enjoy the music to the full.

彼女は耳がいいので、その音楽を十分に堪能できた。

A sound sleep made me feel much better. ぐっすり眠ったので、気分がずっとよくなった。

英語には格が3つある(主格、所有格、目的格)ことを述べたものに、「出川の鬼」がありますが、ここでは、主語を「デ」と副詞的に訳す場合(無生物主語構文)があることに注意しておきましょう。***

If you go along this road, you will get there.



This road will bring you there.

無生物主語

+

他動詞

+

目的語

《訳出のポイント》

出川の鬼

主格

所有格

目的格



■読解ポイント10. 英語は「繰り返し」を嫌う！文脈とは？ ⑩

英語は同じ言葉の繰り返しを嫌います。必ず違う表現で言い換えてきます。このことを知っておくと分からない言葉が出てきても、チョット辛抱して読み続けていると意外なヒントが出てきます。単語レベルの言い換え、熟語レベルの言い換え、構文レベルの言い換え、文レベルの言い換え、さまざまですが、しっかり見抜きましょう。分からない単語が出てきたらすぐ辞書を引くようではダメです。

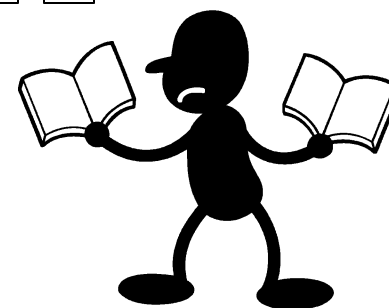
また「文脈」と呼ばれているものは、具体的には次の4つです。

①前の内容に対して、説明や具体例を用いて具体化 抽象→具体

②類似内容の言い換え・追加

③原因・理由に対して、その結果を示す(因果関係) 原因・理由→結果

④対立する内容を述べる



長文が読めない理由ベスト3???

- ①語彙・語法・文法の知識がない。
- ②英文の構造把握力がない（読み下ろしの技術がない）。
- ③文脈（パラグラフ構成・文間論理・議論展開）を追う力がない

そこで…

重要

●長文読解力の磨き方～ハちゃんからのアドバイス～



（１）できるだけ多くの英文と接せよ！読んだ英語の量に比例

語感を養うためにも日頃から積極的に多くの英文に接することが大切です。「英語の学力は読んだ英語の量に比例する」のです。図書館の簡単な洋書を寝転がって読むのもよいでしょう。

（２）語彙力を鍛えよ！毎日単語を覚えること

いろいろな英文の中で、語彙を豊かにしていくことです。その意味で『音読英単語』『速読英単語』（Ｚ会）はいい本だと思います。入試問題（長文）は往々にして、最初のほうに未知の語が集中し、中間から先は平易である場合が多いということも知っておいてもらいたいと思います。簡単にあきらめるな！ということです。接頭辞・語幹・接尾辞を体系的に押さえておくと社会に出てから物を言いますヨ。



（３）すぐ辞書を引くな！

多少意味不明の単語があっても、すぐ辞書に頼るのではなく、まずは最後まで辞書を引かずに一気に読み通すことで、全体像をつかみ取る練習をしておきましょう。くれぐれも「木を見て森を見ず」（*You cannot see the forest for the trees.*）にならないように注意してください。

（４）推理力を磨け！

未知の語の意味を、文脈と密着して考え、そこから割り出す習慣をつけることが重要です。(A) 未知の語の意味が直接的に説明されている場合、(B) 具体例が示されておりそこから推測できる場合、(C) 言い換え表現がある場合、などに分かれます。センター試験の第3問題 A もこの力を試す問題です。

（５）直読直解方式で読み下せ！

英文を書いた人の思考の順序に沿って、頭から頭からどんどん理解していく練習をしましょう。日本語に直す必要のない文は直す必要はありませんし、複雑な英文はスラッシュを入れながら左から右へ読み下していけばよいのです。

（６）指示語に注意せよ！

英語では同じ言葉を何度も繰り返すことを避ける傾向がありますから、**it, this, that, so, do**などの指示表現が用いられます。このような指示表現が何を指すのかを日頃からきちんと押さえながら正確な読みを心がけましょう。訳文にも反映させたいものです。

（７）簡単な単語をおろそかにしない！

簡単そうに見える単語をバカにしてはいけません。丁寧に丁寧に読み込んでください。
(例) " ～"マーク（引用符）はどんな意味でしょう？→「いわゆる、世に言う」→「筆者の疑い」を示す！（私はそうは思っていないのだが…）

（８）まず設問から読む習慣を

設問をまず読んでから、英文を読むようにしましょう。英文のあらすじのヒントをもらって読むことにより、理解度がう～んとアップします。

✓ここをチェック！記述式6つのポイント！

- ①書きなぐり、誤字、脱字をしない。（確認を怠るなかれ！）
- ② —— で消して書き直したり、途中に人の挿入マークを使って挿入したり、矢印で順番を入れ換えたりは御法度。（きちんと消しゴムで訂正）
- ③設問の指示通りに解答する。（字数制限等、設問をよく読む）
- ④答案の途中に空白部を作らない。字を丁寧に書く。（採点者の身になって答案作成、採点者も人の子だ！）
- ⑤解答した後に、（ ）を使って意識したものを付け加えて2種類の解答をしたりしてはダメ！（自分の都合を押しつけてはダメ！）
- ⑥自分が読んでも、何を言っているのか意味の分からない文章は書かない。（まず間違っていると思え！）

要確認



《二次試験対策》 それでは、設問の主なタイプと、全般的な注意事項をあげておきましょう。

（１）内容真偽問題

選択肢の対応する部分を本文中に発見することが命。まず選択肢を読み、次に本文を読み進めながら、該当箇所ごとに問題処理をしていく。○は言い換え、×はすり替えと記述なし。

（２）空所補充・下線部内容説明問題

本文中で答えの根拠となる部分を発見することがカギを握る。①問題を含む一文→②その前文→③その後ろの文→④その段落内→⑤文章全体、の順で答えの根拠を捜していく。

（３）下線部訳問題

文法・語法・構文上の形式的な部分がメインで、意味の不明な語があるときは、前後に同義表現を発見することに努める。

（４）要約問題

問題の指示をよく読みそれに従うこと。筆者の主張や論理展開を把握することが解法のカギになることが多く、指示通りまとめれば、指定字数の9割前後に必ず落ち着く。